

報 告 書

産業常任委員会は、令和5年11月2日（木）に県内視察調査を実施しましたので、その概要を別紙のとおり報告いたします。

令和5年12月4日

福井県議会議長
西本 正俊 様

産業常任委員会
委員長 田中 三津彦

産業常任委員会 県内視察 調査概要

- 1 視察年月日 令和5年11月2日（木）（日程詳細は、別紙のとおり）
- 2 出席者 別紙「産業常任委員会 県内視察調査出席者名簿」のとおり
- 3 視察先
 - (1) 北陸デジタルものづくりセンター（坂井市）

芦田所長のあいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。その後、研究現場の視察を行った。

○「県内企業、地場産業との連携について」
説明者：所長代理 水門 潤治 様
 - (2) 県立恐竜博物館（勝山市）

谷川館長のあいさつの後、資料に基づき概要説明を受け、質疑応答を行った。その後、館内の視察を行った。

○「リニューアルオープン後の集客状況について」
説明者：副館長 辻 俊之 様
 - (3) 勝山淡水漁業生産組合（あまごの宿）（勝山市）

北川組合長のあいさつの後、概要説明を受け、質疑応答を行った。その後、被災現場の視察を行った。

○「令和4年8月豪雨被災からの養殖場再建について」
説明者：勝山淡水漁業生産組合長 北川 雅敏 様
- 4 質疑概要
別紙のとおり

産業常任委員会 県内視察調査日程表

実施日 令和5年11月2日(木)

時 間	行 程
9 : 0 0	議事堂 発 (バス)
9 : 3 0 (90分) 11 : 0 0	<p>北陸デジタルものづくりセンター 着 (所在地) 坂井市春江町江留上大和 10-2 (連絡先) TEL:050-3648-3858</p> <ul style="list-style-type: none"> ○概要説明「県内企業、地場産業との連携について」 ○質疑応答 ○施設視察 同地 発
11 : 5 0 12 : 4 0	<p>昼食 (勝山市内)</p>
13 : 0 0 (90分) 14 : 3 0	<p>県立恐竜博物館 着 (所在地) 勝山市村岡町寺尾 51-11 (連絡先) TEL:0779-88-0001</p> <ul style="list-style-type: none"> ○概要説明「リニューアルオープン後の集客状況」 ○質疑応答 ○施設視察 同地 発
15 : 0 0 (60分) 16 : 0 0	<p>勝山淡水漁業生産組合／あまごの宿 着 (所在地) 勝山市野向町 56-35 (連絡先) TEL : 0779-88-5398</p> <ul style="list-style-type: none"> ○概要説明「令和4年8月豪雨被災からの養殖場再建」 ○質疑応答 ○現場視察 同地 発
16 : 5 0	議事堂 着 (解散)

産業常任委員会
県内視察調査出席者名簿

【派遣委員】	(氏名)	(期別)
委員長	田中三津彦	2期
副委員長	長田光広	3期
委員	田村康夫	6期
〃	大森哲男	5期
〃	野田哲生	2期
〃	兼井大	2期
〃	大和久米登	1期
〃	南川直人	1期
〃	斉木武志	1期
	(委員計9名)	

【地係議員】

北陸デジタルものづくりセンター関係		
坂井市選挙区	森嘉治	1期
	渡辺竜彦	1期
	(議員計2名)	

【議会局】

議事調査課	主任 福岡美和	
〃	主査 荒木涼	
	(議会局計2名)	

(合計計13名)

1 北陸デジタルものづくりセンター（産業技術総合研究所）

県内企業、地場産業との連携について

I 説明概要

○施設の概要と目指す方向性

- ・ 産業技術総合研究所（以下「産総研」という。）の前身は地質調査所であり、国の試験所や研究所が2001年に統合され、産総研が発足。北陸デジタルものづくりセンター（以下「北陸センター」という。）は産総研の12か所目の研究施設として設置された。それぞれに看板テーマを掲げており、個々の施設での技術課題を全国とつなぐ役割を担う。
- ・ 全国にある拠点では7つの領域に分かれて、さまざまな研究を総合的に行う。医療行為そのものは行わないが、それ以外についての研究を行っている。
- ・ 社会問題への取組（例：カーボンニュートラル等）などは一つの領域だけでは解決できないため、総合研究所の特徴を生かしながら、領域を融合させて課題解決に取り組む。
- ・ 地域イノベーションをリードするような多様な連合体、例えば、繊維関係を軸にして企業が手を取り合って連合体を複数創っていく、こういったものを目指す。
- ・ 現理事長（石村 元旭硝子株式会社（AGC）会長）は、これまでの産総研の歴史から少し視点を変え、経営目線で社会改革、経済成長、産業力強化に貢献するようリノベーションを行う。
- ・ 長期的な視点で社会課題を解決するためには、産総研だけではなく日本の大学、公的研究機関、企業と一緒に取り組んでいかなければならない。基礎研究だと大学のウェイトが大きく、実用化に向けて企業とイノベーションを起こしていく。ハードルが高いのであれば、産総研自らがベンチャー企業を起こして、イノベーションにつなげていく。

○主な取組内容

(1) 北陸センターの特徴と取り組むテーマ

- ・ 高機能性衣類、ウェアラブルデバイスの開発
福井県内の企業は繊維産業の優れた技術を持っている。産総研がもつ導電性材料を扱う技術あるいは印刷技術、この技術を融合することで新しい技術を開発していく。また、経編みの技術を補完するような横編み機を導入しており、着心地を良くすることで、普及を促進する。

- ・ カメラがたくさん設置されているスタジオがあり、そこでは運動計測ができる。計測とものづくりが一体となって開発に取り組めることが特徴である。
- ・ 金属3Dプリンター技術開発
CADで設計し、デジタルデータを使って造形する。
- ・ 産総研は「測る」技術が優れており、正確な計測を繰り返すことで、設計・製造・評価をつなぐものづくりプロセスチェーンをしっかりと高度化していく。

(2) A I S T S o l u t i o n s (100%出資による子会社) について

令和5年度に企業との連携活動の取組を強化するために、子会社（外部法人）を設立。従来どおり、共同研究のコーディネートや技術コンサルティング、知的財産に関することを行う。特にマーケティングを強化し、企業の皆さんと事業をつくっていく。

産総研グループが一体となり取り組むことで連携が進むと考えている。

(3) 県、地元企業との連携について

- ・ 北陸地域の産業として、繊維、金属加工があり、特に福井県は眼鏡関係に強い産業である。眼鏡産業と連携した取組も進められており、デジタルものづくりの実証研究が加わることで、産業の高付加価値化、サービス化、金属加工部の高性能、高効率化に取り組むことができる。
- ・ 産総研はふくい産業支援センター、福井県工業技術センターとも密接につながっているので、そこを介して相談していただくこともできる。北陸センターはできたばかりで、現在は企業とのつながりが少ないため、工業技術センターから紹介をしていただきながら連携を進めている。
- ・ 共同研究、技術コンサルタントという地元企業との連携メニューもあるが、その前の段階の技術相談ができる。人材育成と組み合わせ、さらに事業化支援までを行う。

(4) 一般公開について

- ・ 通常だと、市民の方々に来ていただくことが多いのだが、今年は準備期間がなかったことと企業から訪問したいとの声が多く、今年度は企業の方に限定して公開した。60～70名程参加があった。

II 質疑応答

○委員 企業と連携する場合、企業の担当者がこちらに出向く形になるのか。また、新たな機器や設備が必要になった場合にはどうなるのか。

○北陸センター　基本的には企業の方にこちらに来ていただくが、我々が企業の工場や研究棟へ行くこともある。双方に行ったり来たりする。

新たな機器が必要になる場合については、十分な研究資金を企業や県などからもらって、購入できる場合もあるが、残念ながらそこまで資金提供を受けられないのが現実である。

つくばや大阪など産総研は全国にあり、知り合いの研究者が多いので、どこか設備等を持っているところはないかまずは調べてみる。北陸センターに置いていない装置であってもだいたいは見つかる。そういった窓口としての役割もある。

○委員　県内企業は工業技術センターとのつながりが強いのだが、今後相談する時、どのようにすみ分けをしたらよいのか。これまで工業技術センターにお世話になっていたような場合は、次からはどちらに行けばよいのか。

○北陸センター　我々も工業技術センターの担当者とは常に会って情報交換をしている。先に工業技術センターと連携されているのであれば、工業技術センターを核に、企業と産総研の三者で連携していく。

週2回ぐらい工業技術センターへ行って企業の方に話を聞く機会がある。ランクアップというより、お互いが総合的に補完する形で、地元企業の活動を活性化あるいはバックアップのお手伝いをしている状況である。

産総研だけではなく、工業技術センターや大学などが入って一緒に対応していくほうが地元の企業としては一番効果が発揮できると思っている。

例えば、研究者が最先端の電子顕微鏡を実際に操作して、技術を習得するといった事例もある。

○議員　地質調査総合センターについて関心を持っているのだが、今後、北陸センターは「デジタルものづくり」にだけ全力を注いでいかれるのか。それ以外の要望があった場合の窓口もされるのか。

○北陸センター　ここには地質調査をする研究者は常駐していないのだが、つくばセンターにつないで、まずは、オンラインで話をしてもらおう。企業の場合だとマッチングしてから、こちらに呼んで実際に話をするとか、場合によっては、つくばへ行ってもらうこともある。活発に連携を進め、補助金を活用してもらってもできる。地質についても、まずは遠慮なく相談してもらえばいい。

我々が恐竜博物館に行ったとき、博物館の研究者の方から相談されたことをつくばにいる研究者に伝えたところ、彼らの専門とする地質学とは違うということで、それなら誰に相談するといいのかと尋ねたところ、バイオ系の研究者がいいということだった。化石の中のDNAが採取できるのならいいが、採取できない場合、数千年前だと植物の形を見て、どの系列の植物か、今ある植物のご先祖様の可能性があるか、生物学を研究している者のほうが分かるのではないかと紹介先を変えたケ

ースがあった。

産総研は医学以外のほとんどの分野を研究しているので、ピンポイントでベストマッチする場合がある。まずは相談してもらいたい。

○議員 施設の中を見学したいとか、話が聞きたいという要望が地元の方から出ているので、よろしく願います。

○北陸センター この建物には広いロビーがある。これは夢なのであるが、例えば、デジタルものづくりのちょっとした体験ができるような仕込みをして、子どもたちが毎日通ってくるような、ワクワクする雰囲気をつくりたいと思っている。

産総研では、基本的には地元の一般の方に向けて楽しめるようなイベントをするのだが、今はそこまで準備ができていない。ゆくゆくは工業技術センターとも協力してやっていきたい。

Ⅲ 施設視察

※センター内研究現場の施設視察をしながら行った質疑応答については省略する。

2 県立恐竜博物館

リニューアル後の集客状況について

I 説明概要

○リニューアル後の集客状況について

- ・ 入館者数は前年（令和4年）比5割増、コロナ禍前の令和元年比15%増で、想定より若干上回るくらいの入館者数である。夏休みや週末に限らず、平日にもたくさんの方に来ていただいている。
- ・ 9月の月間入館者数は開館当初から2番目に多く、10月の月間では過去最高の数である。入館者数を増やし、なおかつ、混雑の分散化、平準化ができて、好ましい方向に進んでいる。
- ・ 開館以来の累計では、今年度中に1,300万人に到達する見込みである。この数を維持しつつ、来年度には年間百万人を目指していきたい。
- ・ 県外から来られるお客様が9割、関東、甲信越からのお客様が増えている。新幹線開業を見越して、首都圏、信州方面に向けた情報発信、イベント開催等の効果が出ている。新幹線開業を迎えればさらに増えると思う。
- ・ 関東の東京、神奈川からのお客様が増えており、関西、東海方面からのお客様の割合は減っているものの、実数は増えていて相対的には伸びている。

○課題と今後の対応について

- ・ 混雑防止、分散化を目標にしている。繁忙期の事前購入を原則としたところ、入館時に何時間も並んで待つこともなくなり、長くても30分、10～15分でスムーズに入館できるようになった。
- ・ 一方で、高齢者には操作がわかりづらい、購入しづらい、クレジットカード決済ができないなどの相談があった。
- ・ 繁忙期は1日の入館者数の枠がすぐにいっぱいになってしまうが、それ以外の日であれば直接来ていただいて、当日券でも入館できると案内している。
- ・ 年間140万人を目標に、新しい層の方に来ていただくよう、地域の商談会等に出て、観光業、旅行業の事業者に依頼して、閑散期と言われる12～3月にたくさんツアー客を受け入れていく。

II 質疑応答

○委員 入館者数も順調に伸びていて素晴らしいと思う。観光の目玉商品として、稼ぎ頭になってほしいなと思う。一般1,000円、小中学生500円。事業の収益性、インフラ投資をして、建物も増築している。来客数の伸びによる事業の採算性はどうか、また、今後の見込みはどうか。

○恐竜博物館 採算でいうと、年度によって違うが、開館当初から年間1～2億円、一般財源の持ち出しがある。リニューアル後、令和5年度の予算でも変わっていない。公立博物館は収支採算性を求めるだけではなく、県のイメージリーダーとしての広告費、宣伝費をコストの位置付けとした予算体系としている。特別展などこれからしていくが、金額の面でもなるべく県からの持ち出しを減らしていく必要はあるのだが、それよりはまずは、博物館を充実させて、良いものをたくさんの方に見ていただくことに価値を置いて考えていきたい。

○委員 認知度も上がり、来客も増えている。独立して事業が回るように持っていこうとしているのか、あるいは県費投入を受けながら、施設メンテナンスなどをしていくのか、今はどういう方向でお考えか。

○恐竜戦略室長 公立博物館は博物館法にのっとって、原則、入館料はとらないこととなっている。必要な経費については徴収することができるとされており、他の博物館などは100円とか200円である。黒字収支が続くと国から安くするようにと指導が入る場合もある。独立採算制、運営方法など見直した上でやる必要があり、本来の目的である「博物館」としてなのか、「観光施設」なのか位置づけによるもの考える。

○委員 順調な滑り出しで喜ばしいが、今、関東地方から来られる方はおそらく金沢駅で降りられていると思う。新幹線が開業した時には福井で降りてもらえるよう、県として頑張らないといけない。おそらく金沢駅で降りたほうが得なのである。福井駅はレンタカーの数も少ないから、うまくインフラを整えて、料金は高いが福井駅で降りてもらえるような仕掛けをお願いしたい。

石川県はその戦略をしっかりやっている。石川の県立恐竜博物館と思っている方もたくさんいて、福井県の博物館であること、お客様に満足してもらうことが重要である。たくさん人が来すぎてしまうと、おざなりになるので、いかにお金を落としてもらえるか、満足度を持っていただけるようにしてほしい。

○恐竜博物館 お客様の満足度を上げた先に、目標140万人の数字がみえてくると考えている。これまで金沢駅で降りてレンタカーなどで来られるお客様には、県内各地の駅まで乗ってきていただくことが大事になってくるし、アンケートの取り方を検討していく。

福井県内の駅で降りれば、あちらこちらに恐竜が出迎えてくれる。芦原温泉駅から直通バスを実証で動かして、好評をいただいております、福井駅からも恐竜バス、恐竜電車、新しくXRバスといったいろいろなツールで楽しみながら来ていただける取組もしている。移動時間を楽しみながら福井県に来ていただくことを今後も進めていきたい。

○委員 北陸鉄道ではうまくやっているの、負けないように取り組んでもらいたい。

博物館の開館当初の入館料は500円でスタートした。30坪ほどのショップの売り上げの方が多かった。DMOの売り上げが伸びるようにも取り組んでほしい。

○恐竜博物館 この建物は「かつやま恐竜の森」の中にあるのだが、外からお客様が見たときに、森全体が恐竜博物館と理解して来られるお客様が非常に多い。全体がにぎわっていくことで博物館に対する評価が上がる。地元に対してもお金が落ちるようDMOと連携し、季節ごとのイベントなど進めていく。

○委員 アクセスについて、市と連携してシャトルバスを運行するとのことだが、福井駅から恐竜電車以外で勝山駅まで来た人の恐竜博物館までのアクセスはどうなっているのか。

バスはすごく人気があって、予約がなかなか取れない。行くときはバスで、帰りは電車、個人でそれぞれを予約しないといけないなど、連携がうまくいっていない。今後はどのように連携ができるのか。

○恐竜戦略室長 勝山駅から恐竜博物館までの交通手段については、えち鉄の恐竜列車、京福バスの恐竜バス、それにJRのXRバスが追加になる。列車について

は、福井から勝山までは朝1本、福井9時35分発、夏休みは予約でいっぱいになった。往復運航や増便をえち鉄に検討いただいでいて、行きはバス、帰りは列車が実現できるよう協力していく。

勝山駅に来られると博物館までの直通バス、コミュニティーバスの二つがある。えち鉄の電車が着いてから5～10分の待ち時間で接続するようになっているので、それらを使われていると思う。

○委員 パークアンドライドについては、ここに来るまでに情報はきちんと伝わっているのか。ここに来てみて渋滞だとわかり、回ってもらうことになるのか。

○恐竜博物館 実施する日を決めて、公式ホームページ、エックス（旧ツイッター）に毎日情報を出している。勝山のインターを降りたところに案内を出しており、ここまで来る途中に道の駅があるので、うまく誘導することで協力していただく。

ただ、ファミリー層が多く、お子様が小さいと博物館近くまで車で行きたいという方がいらっしゃるのが現状である。

○委員 芦原温泉駅から恐竜博物館までバスで来られるお客様はいらっしゃると思う。お子様連れが多いと思うが、東尋坊、丸岡城、三国港などの芦原温泉周辺の観光地との連携をとってほしい。

○恐竜博物館 それぞれ観光に力を入れられているところなので、しっかり連携して発信していく。

○委員 国際的博物館なので、リニューアル後、学術的な問い合わせがあるのか。今後、博物館として特別展などの広がりがあるのか。

○恐竜博物館 タイの博物館の方が当館に来られている。これから海外との恐竜発掘調査が始まってくる。それと、県立恐竜博物館と浙江自然博物館が姉妹提携をしており、今後話を進める。特別展については、2020年コロナ禍でできなかったのので、来年度に世界三大恐竜博物館であるカナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館と、あとユタ州の恐竜を持ってきて特別展をしたいと考えている。

○委員 繁忙期は事前予約をしないと入れない、駐車場もいっぱいということで、シャトルバスも渋滞が緩和されて有効かとは思いますが、ずっとこれは続けるのか。

○恐竜博物館 これまではこういったやり方をしてこなかったのだが、朝一を狙って来られる方が長い列を作り、車を駐車してから玄関に入るまでに2～3時間並んで待っていたことがあった。もちろん車の渋滞も発生していた。開館前だと1,000人並ばれている。今回、1時間ごとの入館時間に工夫を設けて、それぞれ1,500人

ずつ入ってもらい、1日最大で1万2,000人までと入館を制限した。おそらくこの人数を超える日は年間で10～15日程度かと予想している。

○委員 この事前予約を取り入れているおかげで、開館時間前に少し並ぶ程度ですんでいるようである。ただ、レストランはすごく混雑しているが。

○委員 ファミリー層を狙った昼、成人以上にゆったり見てもらうようなナイトミュージアムなんか面白いのではないかと前にも言わせてもらったが、その後どうか。

○恐竜博物館 現在、試しにやってみようかと内部で検討しているところである。

○委員 いろいろと連携して仕組みをつくられるのは大変だと思うが、夜にもいいイベントが作れると思うので、よろしく願います。

Ⅲ 施設視察

※博物館内の施設視察をしながら行った質疑応答については省略する。

3 勝山淡水漁業生産組合（あまごの宿）

令和4年8月豪雨の被災状況について

I 説明概要

○豪雨による被災状況

- ・ 8月4日の朝8時過ぎから9時半ごろが雨のピークで、床下25センチの浸水に見舞われた。外の状況は土砂が道路に流れ込んでいて、東京からの宿泊客が地元の消防団に先導してもらい、なんとか無事に帰ることができた。
- ・ 土砂が流れ込んで養殖池に水が入らなくなっていたが、アマゴ21万匹のうち池の下の方にいた5万匹が奇跡的に生きていた。
- ・ 8月6日から9日の間に国会議員、市長、県議会議員が視察に来られ、復旧に向けて励ましの力強いお言葉をいただき、頑張ろうという気持ちになった。
- ・ 8月10日からは予約をされていた県外のお客様のみを受け入れた。夏休みのお子様連れで恐竜博物館に来られたお客様だった。天ぷら用のアマゴ、お刺身用のイワナはあったが、焼き物用の魚がなかったので、地元のアユを提供した。お客様からはいろいろな魚が食べられてよかったと言っていたので、大変心が救われた。

- ・ 国から8月24日に激甚災害の指定を受ける。
- ・ 被害額は施設、卵、成魚購入で合計1,750万円強。国、県、市からの補助金1,060万円、自己負担分は540万円、その他150～200万円。
- ・ 9月の中頃には魚の在庫が無くなり、アマゴを仕入れることでしのいだ。
- ・ 10月下旬から工事が始まり11月末には各池に注水できるまでに回復した。

○復旧に向けての取組

- ・ 市役所の手配で、ボランティアの方に毎日お手伝いに来ていただいた。
- ・ パソコンなど不慣れで知識もなかったが、市内で常連のお客様からクラウドファンディングを勧められ、9月1日から開始し目標額に達成した。これ以外にもお見舞金をたくさんいただいた。
- ・ 県が力を入れている、ふくいサーモンの増産によりさらに経営の安定化を図りたいと思っている。
- ・ 北陸新幹線開業および中部縦貫自動車道開通による観光客増に期待している。
- ・ 地元の皆様、行政、ボランティア、常連のお客様に改めて感謝を申し上げたい。

II 質疑応答

○委員 豪雨で被災して、アマゴが5万匹しか残らなかったとのことだが、養殖のサイクルはすぐ元に戻るものなのか。

○組合長 組合では昔から完全養殖で採卵をしている。元に戻るにはだいたい2年は要するので、再来年になる。昨年も今年もアマゴの卵を岐阜県の方から購入している。

6年前に国、県、市の補助を受け、冬場に孵化させる幼魚施設を建て替え、そこでサーモンを養殖している。

○委員 魚のえさはどうしているのか。

○組合長 海の魚を魚粉にしてえさにしている。

ふくいサーモンは11～12月に発眼卵にして、1年間ここで飼育する。今年だと12月には小浜市漁業協同組合、敦賀の業者に販売した。その残りの一部を試しに淡水で飼育してみた。海であるなら水温も高く5月までに3キロになる。ここでは半分くらいの大きさにしかならないのだが、7～8月頃には大きくなる。川では大きくなれないと思っていたが、淡水でもサーモンが育つことがわかり、活路を見出していきたいと思う。

勝山市観光まちづくり株式会社を通して、魚屋さんやスキージャム勝山などで魚を使ってもらい、そこでアンケートを取ってもらったところ、来年も100%使いたいと言っただけだ。勝山で取れたサーモンは、鮮度がよく、歯ごたえがある。

今年は30匹の90キロだったが、来年は10倍の300匹の900キロでやってみる計画を立てている。これも本格的に動き出すのは再来年になるかと思う。

○委員 昨年、被災現場を視察させていただいたとき、本当に復旧できるのかと思った。今も復旧中ではあるが、他に何かしてほしいという要望はないか。

○組合長 こういうことが毎年続いたら困るが、おかげさまでいろいろな方から知恵をいただき、ここまでこられて感謝しかない。

設備に関しては工事が11月には終わると聞いているし、恐竜博物館がリニューアルし、コロナによる制限がなくなったことで、お客様や団体の観光バスも戻ってきている。

勝山市内で100人以上の団体のお客様にお昼を準備できるのはここしかない。自分が若かった時のように無理に詰め込んで予約を受けることはできないから、ある程度制限して余裕を持たせている。最近はお客様自体も大勢ではなく個人のお客様が多い。個人での宿泊もインターネットからの申し込みである。

恐竜博物館は人気があるから、県外からの修学旅行のお客様が来られている。子どもさんは、魚がおいしくてびっくりされる。おいしいからリピーターにもなってもらえる。恐竜博物館はリピーターが多いし、関東の方が多い。新幹線が福井まで来るようになるともっとお客様が来られると思う。

○委員 国道416号が開通して、石川県からのお客様は来られるか。

○組合長 昨年大雨の被害と道路拡張のために、来年の4月いっぱいまで通行止めになっている。5年前の9月に開通したが、開通する前は、小松市の飛行場にも近くなるからと期待していたのだが、道路幅が狭く、軽トラック同士でもすれ違いが出来ない。福井県側の狭い部分は昨年の災害がなければ今年拡張工事をする予定だった。開通して最初の頃は珍しくて来られていたが、石川県側の道路が狭いため不評である。

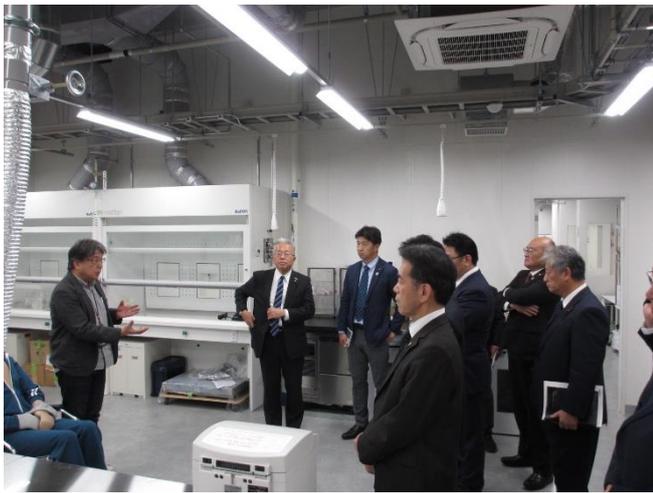
Ⅲ 現場視察

※豪雨で被災した現場視察をしながら行った質疑応答については省略する。

産業常任委員会 県内視察

(北陸デジタルものづくりセンター)





(県立恐竜博物館)





(勝山淡水漁業生産組合／あまごの宿)



